

異文化間コミュニケーション

異文化間コミュニケーション

2単位 (選択) 2年 (前期, 集中)
坂田 浩・准教授/国際センター

【授業目的】 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生して行くことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1) 受講者自身が自らの文化に気づき、(2) 多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3) 異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行く為の具体的方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。

【授業概要】 異文化トレーニング

【キーワード】 [キーワード]

【先行科目】 [先行科目]

【関連科目】 [関連科目]

【履修上の注意】 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

【到達目標】 [目標]

【授業計画】

1. 具体的な内容・計画は以下の通り。
2. (1) 「自文化を気づくトレーニング」
3. (2) 「Perception/Programming のエクササイズ」
4. (3) 「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」
5. (4) 「見える文化・見えない文化のエクササイズ」
6. (5) 「価値観の多様性に関するエクササイズ」
7. (6) 「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」
8. (7) 「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」
9. (8) 「Organizational/Individual Challenges」
10. (9) 「多文化で共生できる人とは?:DMIS」
11. (10) 「多文化で共生する為のヒント:DIE」
12. (11) 「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」
13. (12) 「Action Planning:大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」
14. など

【成績評価】 評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。

【再試験】 行わない

【教科書】 なし

【参考書】 [参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218358>

【連絡先】

⇒ 坂田 (国際センター 教員室 1, 088-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) Mail

【備考】 他学科・他学部生も履修可能 (ただし、総合科学部生を優先)

Target 現代日本社会において「国際化」は避けては通れない道である。海外とのやり取りが非常に複雑化、日常化してきている今、「異文化コミュニケーション」はかつてないほどの非常に重要な意味を持っており、「今後日本人が他文化と共生していくことが出来るかどうか」は、私達日本人にとっても大きな課題であると言える。本講義で実践する「異文化トレーニング」は、現在アメリカなどの諸外国で広く実用化され始めている教育実践であり、「文化差に直面した場合、どのように対応するか」について各種エクササイズを通して学ぶものである。本授業では、(1)受講者自身が自らの文化に気づき、(2)多様な価値観を認める心的素地を形成するとともに、(3)異なる価値観を持った人々と実際にコミュニケーションして行く為の具体的方法を学ぶことを目的に授業を展開することとする。

Outline 異文化トレーニング

Keyword [キーワード]

Fundamental Lecture [先行科目]

Relational Lecture [関連科目]

Notice 具体的な講義内容については、講義開始時に改めて提示する

Goal [目標]

Schedule

1. 具体的な内容・計画は以下の通り。
2. (1) 「自文化を気づくトレーニング」
3. (2) 「Perception/Programming のエクササイズ」
4. (3) 「ステレオタイプと一般化のエクササイズ」
5. (4) 「見える文化・見えない文化のエクササイズ」
6. (5) 「価値観の多様性に関するエクササイズ」
7. (6) 「コミュニケーションスタイルに関するエクササイズ」
8. (7) 「協力関係を作り出すためのグループエクササイズ」
9. (8) 「Organizational/Individual Challenges」
10. (9) 「多文化で共生できる人とは?:DMIS」
11. (10) 「多文化で共生する為のヒント:DIE」
12. (11) 「多文化で共生する為のヒント:Action Planning」
13. (12) 「Action Planning:大学内の留学生との活動を計画しましょう♪」
14. など

Evaluation Criteria 評価は、基本的には出席・レポートを基に行う。

Re-evaluation 行わない

Textbook なし

Reference [参考資料]

Contents <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218358>

Contact

⇒ Sakata (国際センター 教員室 1, +81-88-656-7199, kobayasi@isc.tokushima-u.ac.jp) **Mail**

Note 他学科・他学部生も履修可能 (ただし、総合科学部生を優先)